

〈研究ノート〉

日商ビジネス英語検定試験の現状と課題

——貿易立国の立場から——

関 根 幸 雄

(受付 2013年 5 月 29 日)

Abstract

Between April, 2004 and March, 2010, the total number of examinees for the Business English Skills Test was only 4,280. This is in sharp contrast to the 11,102 examinees for the Proficiency Test in Trading Business in 2012 alone.

In view of Japan's position as a trading nation, it is of vital importance to foster the development of businesspersons with expertise in international transactions.

It is the author's contention that we should do more to promote the Business English Skills Test, addressing issues and problems towards this end and for the betterment of the test.

I. は じ め に

日商ビジネス英語検定試験は、2002年度に商業英語（国際ビジネスコミュニケーション）検定試験（以下「旧試験」という。）が廃止されたあと、2004年4月から3級のための施行で始まり、2006年度には1級～3級のすべての試験が実施されるようになった。

この検定試験は旧試験ならびに英語ビジネス文書作成技能検定試験の社会から評価されている長所を継承したものとして、企業や教育機関等に対するニーズ調査を兼ねたヒアリングを重ね、創設されたといわれている。

2010年3月31日現在、1級～3級の受験者数は2004年4月からの累計で4,280名と発表されている。年平均にすると、年間当たり700名程であり、

グローバル化時代の中でビジネス英語に対する社会的ニーズはこの程度の受験者数なのだろうかという疑問を抱かざるをえない。

本稿では、こうした問題意識を踏まえながら、この検定試験の入り口である 3 級を中心に現状と課題について考察を試みることにする。

Ⅱ. 検定試験の概要

(1) 目 的

国際化や IT 化が大きく進展したことにより、海外企業や国内の外資系企業等とのビジネスにおいて、英文の E メールなどによる商取引が一般化していることから、IT 時代に対応した国際ビジネスコミュニケーション手段としての英語を活用できる人材を育成し、わが国商工業の振興に寄与することを目的としているという。

(2) レベルと出題内容

国際業務で使用する英文レターや E メールなどコミュニケーションに係る分野と、海外取引の流れや実際に使用される各種書類など取引実務に係る分野を併せ持ち、ビジネスの現場で活用できる英語力を問う試験内容となっているという。

ここでは、3 級について取り上げることにする。

レベル

入社前に身につけるべき英語によるビジネスコミュニケーションの基礎的な能力を有するとされている。

内 容

客観式（選択式）の問題を中心に、英単語を記述するなどの形式の問題も加え、入門知識や常識などを含めた英語でのビジネス文書や海外取引の基礎など、最低限覚えておいた方がよい内容を出題するという。

関根：日商ビジネス英語検定試験の現状と課題

出題範囲としては次のとおり。

- ①英文レターライティングの基礎
- ②英文ビジネスEメールの基礎
- ③ビジネス英会話の基礎
- ④海外取引の基礎
- ⑤国際ビジネスのための基礎

(3) 試験時間等

試験時間 30分

問 題 数 10題（1題あたり5問で、合計50問）

合格基準 100点満点で70点以上

(4) 実施方法

試験会場のパソコン等を利用する（試験の実施から採点、合否判定までをインターネットを活用して行う）。

Ⅲ. 3級試験問題の検討

前述のとおり、問題数は10題（1題あたり5問）とあるので、公式模擬問題集にある問題1から問題10までの例題を取り上げながら、検討することにする。

問題1 実務知識問題 5問

正誤問題形式で、レターやEメールの形式やマナー、海外取引に関する知識、英文の正誤（英文自体の誤りの有無）などの設問である。

例題 ①Blocked Form は、すべての項目を左端から始める。

正答：NO

例題 ②Dear Mr. Baker は会社宛 Letter の Salutation である。

正答：NO

例題 ③Full-Blocked Form という Letter Form は、Letter の構成要素すべてが左マージンから書かれている。

正答：YES

YES か NO の二択で解答するため、当て推量による正答の可能性が排除できないように思われる。

問題 2 用語問題 5 問

主として英単語とその意味を結びつける設問である。

例題 ①accommodation

正答：宿泊施設

例題 ②Irrevocable Letter of Credit

正答：取消不能信用状

例題 ③acronym

正答：頭字語

ビジネスパーソンが知っておくべき単語のほか、貿易実務の用語を問う設問が出題されている。なお、例題① accommodation はアメリカ用法では accommodations と複数表記になるので、英米の差異の扱いについての問題があるように思われる。

問題 3 略語・記号問題 5 問

略語や記号とそれらが表すものを結びつける設問である。

例題 ①£, HK\$, Rp

正答：イギリス, 香港, インドネシア

例題 ②EOF, FAQs, ICT

正答：以上, よく聞かれる質問, 情報通信技術

例題 ③減価償却, 質, 経費

関根：日商ビジネス英語検定試験の現状と課題

正答：depr., qlty., chg.

通貨記号，インターネット用語，単語・用語の略語について出題されているが，通貨記号では主要通貨でないものがあるほか，depr. など経常通信では馴染みの少ない略語が見受けられるように思われる。

問題4 空所補充問題 5問

出題内容は多岐にわたっている。

例題 ①手紙に Price List を同封した時は，（ ）と記述する。

正答：Enclosure

例題 ②（ ）は形容詞として使うと，「客観的な」という意味になる。

正答：objective

例題 ③We are （ ） to accept your offer at the said price.

正答：unable

以上から，基本的な用語，英単語，表現が問われるように思われる。

問題5 ビジネス英会話問題 5問

ビジネス英会話のやりとりの一部が空欄となっており，選択肢から適当な会話文を選択して完成させる設問である。

例題 ①Hotel clerk: Silver Inn, Atlanta. This is Miranda. How may I help you?

Keiko Sato: ()

正答：I'd like to make a reservation.

例題 ②Keiko Sato: Hello, this is Keiko Sato. I called earlier...

Receptionist: Oh yes, ()

正答：I'll put you through to Mr. Hancock.

例題 ③Keiko Sato: ()

Herb Hancock: Yes. But please call me Herb.

正答: So, Mr. Hancock, I'm glad we're able to have some more time to talk.

ホテル予約, 電話, 食事の場面における基本的な表現を問う設問が出題されているように思われる。

問題 6 語句整序問題 5 問

単語を並び替えて英作文を行う設問である。

例題 ①I'll (1. someone 2. deliver 3. to 4. them 5. have) your room when they're ready.

ご用意ができましたら, お部屋までお持ちします。

正答: 5 - 1 - 2 - 4 - 3

例題 ②We specialize (1. quality 2. Goods 3. of 4. Electrical 5. in)

正答: 5 - 4 - 2 - 3 - 1

例題 ③This (1. of 2. to 3. inform 4. you 5. is) the opening of our new branch in Tokyo.

正答: 5 - 2 - 3 - 4 - 1

和文が併記されていない場合, 英単語だけで内容を判断することになる。例題①では使役動詞の have の使い方, 例題②では specialize in と of quality, 例題③では This is to と inform ... of ~について問う設問であり, 熟語や慣用句が試されるように思われる。

問題 7 用語の空所補充問題 5 問 (キーボード入力)

所定の場所に指定されたアルファベットで始まる英単語 1 語を入れて

関根：日商ビジネス英語検定試験の現状と課題

英文を作成する設問である。

例題 ①早速のご返信ありがとうございます。

Thank you for your (p) reply.

正答：prompt

例題 ②当社は、当地の一流製造業者と密接な関係にあります。

We have close connections with (m) manufacturers here in Japan.

正答：major

例題 ③彼の出張のためにスイートルームを1部屋予約していただけないませんか。

Would you please reserve a (s) room for his business trip?

正答：suite

英単語1語だけ問う設問で、よく使われる語ではあるが、書く力の養成を考えると、単語レベルよりも前後にくる単語も問う設問にしたほうがよいのではないと思われる。なお、スイートルームを suite room と表記しているが、インターネット検索を行ったところ、suite と表記する用例がほとんどであったことを付言したい。

問題8 実務知識問題 5問

海外取引の流れについて問う設問である。

例題 ①第一段階 輸出商品・取引先の決定

市場調査

商品の決定

()

信用調査

正答：取引先の発見

例題 ②BENEFICIARY <————> ()

正答：APPLICANT

例題 ③() <————> APPLICANT

正答：BENEFICIARY

基本的な実務知識を問う設問であるが、海外取引の流れといっても貿易取引に関する実務知識に限られているように思われる。

問題 9 英文レター・FAX・Eメール問題 5問

英文レターや FAX, Eメールが出題され、設問に解答する形式である。

例題 ①Please note that my office () number is now 2003.

正答：extension

例題 ② As Mr. Brown would like to see a list of FAQs from our customers () advance, I would be grateful if you could fax or e-mail the FAQ list to me at: miho-e-japan.co.jp.

正答：in

例題 ③Thank you very much for your letter of May 15, in which you express your desire to open an account with us.

正答：～と取引を開始する

例題①は extension number という用語、例題②は in advance という熟語、例題③は open an account with という慣用句を尋ねる設問である。用語については、問題 2 (用語問題) で出題したほうがよいのではないと思われる。

問題 10 英文文書問題 5問

英文の読解についての設問である。

例題 ①(英文文書を読んで) この文書はどのような形態で送付された

のか。

正答：FAX

例題 ②(英文ビジネスEメールを読んで) この文書の用件は何か。

正答：依頼

例題 ③(ビジネスレターを読んで) このレターはどのようなオファーか。

正答：確定オファー

文書、Eメール、レターについて、内容理解を試す設問である。内容のほかにも形式が問われる設問もあり、形式も重視されているように思われる。因みに、1級における講評には「一定以上の英語力があると思われるものの、基本的な Letter Form の書式などを十分に理解していないために得点に結びつかない解答が見られました」という指摘がある。

以上、例題を取り上げて概観してみると、出題範囲は多岐にわたるものの、ある程度限られた範囲から基本的な問題が出題されているように思われる。3級公式テキスト改訂版には(1) 英文レターライティング、英文ビジネスEメールの基礎、(2) ビジネス英会話の基礎、(3) 海外取引の基礎、について3章にわたり詳しく説明されているが、公式模擬問題集にある例題には、前述のとおり、問題1から問題10にわたり、基本的な事柄が出題されているに過ぎない。

また、筆者が受験対策を行った学生に聞き取り調査をしたところ、受験者ごとに出題される問題が異なる模様であり、出題される問題によっては受験者にとり可否に影響を及ぼす可能性も否定できないように思われる。この点を検証するには合格者に複数回にわたり受験してもらうことが必要になろう。どの試験を受けても合格するのであれば試験問題の妥当性は確保できるが、そうでない場合には何らかの問題があることになろう。

さらに、50問のうち、45問が選択問題、5問がキーボードにより解答を

入力する問題であることは、旧試験のDクラスにおける21問中15問が記述問題であったことは対照的であるほか、旧試験のDクラスでは50分であった試験時間が3級では30分と短くなってしまった。2級においても40分と短く、30分乃至40分という試験時間で有効な合否判定が可能であるのか併せて検証する必要があるだろう。

Ⅳ． 検定試験の課題

(1) 受験者数の動向

日商ビジネス英語検定試験の受験者は、前述のとおり、2004年4月～2010年3月31日までの累計で4,280名、年間当たり700名程となっている。

これに対して、旧試験は、廃止された2002年度だけでAクラス～Dクラスの四クラス合計で3,135名であったので、旧試験よりも受験者が遥かに少ないことが窺える。

同様に、貿易関連検定試験である貿易実務検定の受験者の推移をみると、1998年に創設され、同年1,750名の受験者から2012年には11,102名へと6倍強も増加している。同検定は、元々通関士試験対策を行っている民間専門教育機関が立ち上げたが、通関士試験対策での実績を踏まえ、貿易実務に特化した検定試験として発足した。

この受験者の増加の背景には他の検定試験の廃止や打ち切りという要因があるようであるが、日商ビジネス英語検定試験の受験者は少な過ぎるといわざるをえない。わが国は貿易立国であり、貿易は国是であるとするならば、貿易実務者を育成する社会的ニーズはあるはずであるにもかかわらず、少ないのはなぜだろうか。

(2) 3級公式テキスト

3級公式テキスト第1刷には訂正が23箇所もあり、訂正の多くは誤字や脱字などの校正上のミスであるため、筆者はテキスト発行の際内容や表記を十分に推敲したのか疑問であるといわざるをえないと指摘した。その点、

改訂版では改善されたことは評価したい。

しかし、次のとおり用語の表記上の問題があるように思われる。

①Received Bill of Lading；受取式船荷証券

一方で、Shipped B/L；船積船荷証券とあり、B/L と Bill of Lading の整合性の問題があるほかに、受取式船荷証券に相対するのは積込式船荷証券であるにもかかわらず船積船荷証券とあるので、これも問題であろう。

②Shipping Marks；荷印

これも、索引には Shipping Mark；荷印とあり、複数と単数について整合性の問題があろう。

③Shipping Documents；船積書類

多くの参考文献において、Shipping Documents を船積書類としているが、航空輸送の場合はどうなるのであろうか。参考文献によっては、出荷書類、積出書類、積荷書類という表記もみられるので、航空輸送などにも配慮する必要があるように思われる。

前述のとおり、出題範囲は限られているので、出題する内容を中心に学習できるようにするという受験者への配慮も必要であろう。長い時間をかけて公式テキストを学習しても、試験自体は30分で終わってしまうことに違和感を覚える。公式テキストをしっかりと学習することを否定するものではないが、受験者を増やすとともに合格者も増やすということを考えると、こうした配慮があってもよいのではないだろうか。

(3) ビジネス英語のアイデンティティー

旧試験では、受験対策用に D クラステキストが刊行され、貿易取引において使われる基本的な文例や用語などが取りまとめられた。筆者としては、

①商業英語（国際ビジネスコミュニケーション）検定試験の商業英語とは貿易英語のことであった、②このDクラステキストは先達からの指南書であった、と考えている。それ故、この試験の性格は明確であり、受験対策

も先達から継承されたものを学ぶので、受験しやすかったように思う。

これに対し、日商ビジネス英語検定試験の名称にあるビジネス英語とは何なのかアイデンティティーの問題があるのではないだろうか。今日の国際ビジネス活動は、貿易だけに限らないより広がりのあるものとなっている。企業活動も多様化しているので、対象とする範囲を広げることに異論はないが、一方でアイデンティティーが問われているように思われる。いろいろな英語関連の検定試験や資格試験がある中で、社会的に受け入れられて評価されるアイデンティティーをもたないと中途半端な存在になってしまう恐れがある。

企業が求める英語力のキーワードとして、①専門知識を踏まえた会話力、②ライティングも重視、③英語プラス α のスキルも必要、④異文化を理解するのが前提、⑤業務文書などの読解力、が挙げられよう。これらの側面について、どこを重視し、どのニーズに答えてアイデンティティーを形成するのはこの検定試験の成否にかかわる大きな問題であろう。筆者は、これらの側面の中で特にライティングと業務文書などの読解力が重要であると考えており、そうした側面を重視した検定試験とすべきではないだろうか。ビジネス英語はビジネスの促進遂行という目的に最適な使い方をするのがビジネス英語の本領であり、手紙文の読み書きがすべての基本であると認識しているからである。

筆者としては、社会的にも学術的にも受け入れられる試験とするために、旧試験の原点に立ち返って、試験制度や内容について抜本的に見直し、リニューアルしたうえで再スタートすることを検討すべきであろう。

V. 検定試験の社会的意義

検定試験とは、広辞苑第六版において、「特定の資格を与えるべきか否かを検定するため行う試験」と定義されている。また、検定とは「一定の基準に照らして検査し、合格・不合格・価値・資格などを決定すること」という。

2008年10月に出された「『検定試験の評価ガイドライン（試案）』について（これまでの検討の整理）」（検定試験の評価の在り方に関する有識者会議）において、その開催趣旨に鑑み、用語の厳密な定義に拘らず、社会一般で通称的に使用されている「検定」や「資格」、「認定試験」などの用語を含め、広く学習者の学習成果を測定する、いわば物差しとしての役割を果たしているものを包括的に「検定試験」という用語で整理している。

学術的な定義というよりも、社会的に受け入れられている考え方を優先しているようであり、現実的な解釈といえるかもしれない。

文部科学省委託「検定試験の評価等の制度に関する調査（企業等対象）」（2007年）によると、民間企業（大手企業100社、中小企業109社）の人事担当部署を対象に行ったところ、次のとおりであったという。

「有用であるという企業が、大企業、中小企業とも7割弱と多数を占めていた」

その主な理由として、「現在ある同種の検定試験や新しい検定試験の内容が明確になれば、採用・人事管理において判断がしやすくなる」、「保証された検定試験の級等を有しているということは、ある程度その知識のレベルがあるということになるから」、「検定試験を取得するための努力の過程、前向きな姿勢をみてとれる」という。

また、採用の際、「応募要件であることや審査時に加点するなど評価していたり、参考程度にしていると回答した企業は、大企業、中小企業ともに約4割あった」という。

以上から、検定試験は企業社会から一定の評価をされているといえよう。貿易関連検定試験では、(1)貿易実務者を育成し、(2)その力を判定するという社会的意義があろう。そして、その判定結果が社会で評価されれば、社会貢献につながるようになるだろう。

VI. 3級試験問題への提言

主催団体である日本商工会議所は「書く（Writing）能力（英語の文章で

自分が意図したことを相手に正確に分かりやすく伝える)を重視しています。企業で日常的に使用する英語のビジネス文書の作成及び海外取引に関する実務的な内容について、具体的な場面設定に基づいて出題していますので、ビジネスで求められる英語力の養成に最適な試験」という。

しかし、3級では英単語をキーボードで入力する設問が5題だけであり、「書く能力を重視」としている割には、3級では英単語を入力する程度にとどまっている。少なくとも、旧試験Dクラス程度の記述問題を出題すべきであり、英単語だけではなく一定のまとまりのある語句なども出題することを提言したい。

以下、問題7の例題を取り上げ、英単語ではない、チャンクや慣用句について検討することにする。

問題7

(1) 早速のご返信ありがとうございます。

Thank you for your (p) reply.

この設問について、your prompt reply が一つのチャンクとして捉えられるので、Thank you for (y) (p) (r) としたほうがよいであろう。ただし、正答としては、your prompt reply のほかに、your prompt response も考えられるので、そうした複数の正答にも対応する必要があるかもしれない。

(2) 弊社の製品とサービスにご関心をお寄せいただき、本当にありがとうございます。

Thank you again for your (i) in our products and services.

この設問について、your interest in が一つのチャンクとして捉えられるので、Thank you again for (y) (i) (i) our products and services. としたほうがよいであろう。

(3) いつでも当所をご利用ください。

We hope you will make (u) of our services at any time.

この設問について、make use of が一つの慣用句として捉えられるので、
We hope you will (m) (u) (o) としたほうがよいであろう。

(4) 注文品は至急必要ですので、第1便の船で出荷願います。

We ask you to ship our order by the first available (v) .

この設問について、first available vessel が一つのチャンクとして捉えられるので、
We ask you to ship our order by the (f) (a)
(v) としたほうがよいであろう。

VII. お わ り に

拙稿「『英語が使える日本人』の育成のための行動計画についての一考察」の中で、具体的達成目標としての外部検定試験として日商ビジネス英語検定試験の普及・推進を図るべきであるとの提言を行った。貿易立国のわが国にとって、貿易実務者の育成は社会的使命であり、そしてそのための検定試験は社会的意義のあることと考えるからである。

この検定試験をさらに普及・推進させるためには、(1) 出題内容や範囲の明確化、そして(2) 入口である3級の受験者を増やす方策を見直すべきであろう。旧試験では、Dクラスは主に専修学校生が受験していたので、教育機関との関係の在り方が問われているといえるかもしれない。

最後に、今日、貿易関連の検定試験として、公的資格である日商ビジネス英語検定試験と民間資格である貿易実務検定試験の2つしか受験資格を問わない公開試験としては施行されていないのが現状であり、憂うべきことではないだろうか考える次第である。

参 考 文 献

- 『日商ビジネス英語検定3級公式テキスト』、日本能率協会マネジメントセンター、2003年。
『改訂版日商ビジネス英語検定3級公式テキスト』、日本能率協会マネジメントセンター、2012年。
『日商ビジネス英語検定2・3級公式模擬問題集』、日本能率協会マネジメントセン

ター, 2007年。

関根幸雄「日商ビジネス英語検定試験についての一考察」『国際ビジネスコミュニケーション学会研究年報』(第66号), 2007年。

関根幸雄「『英語が使える日本人』の育成のための行動計画についての一考察」『国際ビジネスコミュニケーション学会研究年報』(第65号), 2006年。

関根幸雄「企業が求める英語力」『日本商業英語学会研究年報』(第60号), 2001年。

「『検定試験の評価ガイドライン(試案)』について(これまでの検討の整理)」, 検定試験の評価の在り方に関する有識者会議, 2008年10月。

文部科学省委託「検定試験の評価等の制度に関する調査(企業等対象)」, 2007年。

浜谷源蔵・椿 弘次『最新貿易実務』, 同文館出版, 2006年。

『商業英語(国際ビジネスコミュニケーション)検定試験Dクラステキスト』, カリアック(商工会議所福利研修センター), 1996年。